綜　合　講　演

伊達政宗の土木計画

三　原　良　吉*

文治5年(1189) 8月，源頼朝は平泉義原氏を亡ぼして東北の歴史を完全に塗りかえたが，当時義原氏の最前線の防御陣地は福島平野の北方山岳地帯東端にあった。南から福島平野へ入るには松川事件で有名になった松川駅付近の相当縦深のある峠を越さねばならぬ。義原氏はここに強固な陣地を設けていたが，鎌倉勢の先鋒をつとめた中村常陸介朝宗が，これを突破して全軍を福島平野へ進入させる端緒を作った。朝宗は常陸の目代で真壁郡中村（下館市）に城をかまえていたが，この時の戦功によって福島市に接する伊達郡に封ぜられ，上保原の阿武隈川に面する高子岡に築城して，在名をとり伊達氏を称した。これが仙台侯伊達氏の祖で，政宗はその 17 世にあたる。その間，南北朝時代に南党に属し8世宗遠に至って長井庄(米沢)の北党に属する長井氏を亡ぼして置賜郡をあわせ，以来政宗の時まで200年領有し，政宗は永禄10年(1567) 8月3日，16世伊達輝宗の長子として米沢西郊の舘山城(今東北電力舘山発電所)に生まれた。幼名を梵天丸といい，平凡な少年であったといわれるが長ずるにしたがって頭角をあらわし，18 才で17世を継ぎ，今の福島県一帯の会津，仙道，磐城にいた7将を各個に撃破して天正17年(1589) 22才で北方の王者となった。翌 18 年秀吉から会津をとり上げられて再び米沢に移され，そのあとには政宗の押さえとして蒲生氏郷を封じた。翌 19 年米沢から玉造郡岩出山 58 万石に移され，ここ 10 年在城する間に秀吉が亡くなり慶長5年(1600)関ヶ原役が起こった。政宗は三成と相呼応する上杉景勝を会津にけん制する作戦を担任し，戦後家康から刈田郡を加封され，この年の 12 月仙台転封を命ぜられた。このとき千代(せんだい)の地名を仙台と改め，築城と都市計画はあくる6年1月から開始し1年半で完成した。時に 35 才，この年2月1日から5月5日までを日限とし，岩出山城下から武士と商人の移動を完了した。これが現在人口 49 万5000 の仙台市の誕生であったが，当時の戸数1万 800，人口5万 2000 と記録されている。

伊達政宗の像

仙台城は標高 132 m，典型的の山城で高さ 90 m の絶壁をもって市街にのぞみ，南に大連崖の深谷，西方は急斜面，背後は奥羽山脈に連なる原始林で，石垣を必要としない天嶮に立っている。東方前面は城の下を広瀬川が南流して外濠に代り，かつ城下との仕切りをなしている。築城には大阪城や伏見城の築城に従事した泉州堺の石工を多数召し下し，石材は仙台北郊から仙台石と称する安山岩を切り出して使用した。使役の人夫は 7128 人と記録にある。天守は最初から置かず天守台のみを設け，四隅に三層ヤグラを配し，中央に一重 15 室から成る書院を主要建築とする聚楽第の様式であった。市街は広瀬川にのぞむ東岸の片平丁と郭内地帯に重臣，市中をほぼ碁盤目に割って平士を置き，外側に組士，足軽を配し，大手筋と奥州街道が城下中央で交差する幹線道路に町人を置いた。市街を東に向って馬蹄型に囲む丘陵に社寺を配し連帯堡として城下を防御した。この整然たる封建都市の構成は仙台城本丸跡の崖上から手にとるごとく観ることができる。

動乱の時代に生まれて動乱の渦中に育った政宗は後に従三位権中納言兼陸奥守に叙任され戦国生き残りの諸侯中の元老として重きをなし，寛永 13 年(1636) 5月 24 日江戸桜田（日比谷）の藩邸に 70 才で畳の上で大往生をとげたが，仙台開府のときは 70 年の生涯の半ばの 35 才の時で，以後 35 年の後半生は，あたかも年次計画をしたかのごとく着々と事業を秩序整然と完了して二代の忠宗にバトンを渡している。

第1次の慶長年中は城下経営の仕上げと道路の整備，

* 郷土史研究家

社寺の再興に専念した。現在の仙台市を中心とする一級国道4号線の岩沼—仙台（5里），仙台—吉岡（5里）は政宗が付けかえたもので，南は現在よりもはるかに西側をう回していたのを岩沼から直接仙台に通ずるように改め，慶長 17 年から仙台—岩沼に長町，中田，増田の駅を開いた。北も現在よりも東側の山中をう回していたのを今のように改めた。社寺の再興には秀吉の工匠であった鶴右衛門家次や刑部左衛門国次らの巨匠を召して松島瑞巌寺，仙台大崎八幡神社（2者とも国宝）のごとき，豪華けんらんたる桃山建築を続々と完成して行った。この間，慶長 19 年には幕命によって長女五郎八（いろは）姫の聟松平忠輝（家康七男）の越後高田城を修築し，この年の冬，大阪役が起こり出戦している。第二次の元和年中は文化の輸入と産業開発が主なる事業であった。ヨーロッパの文化を移入するため支倉常長をローマへ使いさせたのもこの第二次計画に属する。産業としては仙台の北方大崎平野の米の増産，松島沿岸，牡鹿郡，亘理郡地方の製塩，栗原郡の細倉鉱山の鉛，本吉，遠田の金山，本吉郡，気仙郡の鋳鉄，北上川の大改修と石巻港の開設がこの期の事業であった。その間，延 423 179 人の使役と黄金 2 676 枚を要した江戸城壁修築があった。第三次計画は晩年の寛永年中で，主として城下の南方拡張に当り，寛永 4 年（1627）自ら仙台城を出て城下の東南郊外にある中世の古城址を根本的に修築して，あくる 5 年秋に成り移徙した。この城は 3 町 4 方，周囲に 2 丈余の土居を築き，幅 30 間の 2 重の城濠をめぐらし，これを若林城と称し，寛永 13 年江戸で没するまでここで生活しながら南方都市計画の実施を督した。治水，造山もこの期に行なわれ，それらがほぼ完了する頃，寛永 13 年 1 月幕命により江戸城総郭の濠，堤の普請に当った。これを 7 区に分け，1 区ごとに関東，東北の諸大名数家が協力して当ったが，政宗は 1 区を単独で担任した。その工事面積は 24 446 坪であった。

彼が一生を通じての大きな土木計画は北上川の大改修と石巻の開港であろう。以前の北上川は元禄 2 年(1689) 5 月芭蕉が石巻から平泉に向うべく通過した登米，飯野川間 3 里の構造谷の間を南流し，飯野川付近で分岐して本流は太平洋東岸の追波(おっぱ)湾に注ぐ現在の追波川がそれであった。したがって仙台地方の穀倉地帯の米を運ぶためには一度追波湾に出たのち牡鹿半島をう回して塩釜へ向わねばならなかった。よって政宗は登米の下流 1 里の柳津で本流を締め切り，ここから西側に本流を転じ，これに西方から流下する迫（はさま），江合（えあい）の 2 川を合せて流勢を強め，これを飯野川から分岐していた北上川に合せて桃生郡鹿又で 1 本とし，ここから 2 里半石巻湾に本流をつけかえた。この大土工は，もと長州毛利氏の旧臣で土木に卓越した手腕を持った川村孫兵工重吉（慶安元年 74）を 3 000 石をもって召し出し計画と施工に当らせ，元和 9 年（1623）に着工し寛永 3 年（1626）に成った。これによって従来牡鹿半島をにう回した航路にとって代って鹿又から 2 里半で石巻湾に出ることとなり至大の便利を得るに至り，同時に石巻市今日の基礎が作られた。一方仙南地方の物資を仙台城下へ運ぶため阿武隈川を下って河口の荒浜に至り，ここから 4 里，名取川河口まで運河を掘り，名取川を溯ってこれに合流する広瀬川に入って溯り，城下舟丁の着岸するよう航路を開いている。それらの土木計画は貢米ならびに江戸回米の運漕を目的としたもので仙台藩として画期的の事業であり，その恩恵は大きなものがあった。

(1964.5.30・東北大学にて講演)

国家公務員採用初級試験について

昭和 39 年度国家公務員採用初級試験はつぎのように行なわれますのでお知らせします。なお，詳細は人事院各地方事務所にお問合わせください。

受付期間：7月 10 日～7月 31 日

第 1 次試験：〔教養試験・専門試験〕
9月 20 日

第 2 次試験：〔口述試験〕
10 月下旬～11 月中旬

合格発表：11 月中旬～12 月中旬

地区	申込先	所在地
北海道	人事院札幌地方事務所	札幌市大通り西 10 丁目
東北	仙台	仙台市外記丁通 21
関東・甲信越	東京	東京都千代田区霞ケ関 1 の 2
東海・北陸	名古屋	名古屋市中区南外堀町 6 の 1
近畿	大阪	大阪市東区法円坂町
中国	広島	広島市基町 1
四国	高松	高松市天神町 1 丁目 9 の 1
九州	福岡	福岡市舞鶴 9 丁目 5 の 20